

■児童の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」国語と算数と理科の平均正答率は、全国や東京都の平均を上回っていた。さらに、過去3回の平均正答率を全国や東京都と比較すると、年を重ねる毎に上昇している。しかし、国語の言葉の働き、算数の割合、理科の日光の問題に関しては課題があり十分ではなかった。
- 「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、自分で計画を立てることや誤答のフィードバックが十分ではなく、児童が主体的に取り組めるようにしていく必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 「input→think→output」の学習過程を通して、「読み解く力」の育成を図り、活用しようとする態度の向上を図る。
- 学習のめあてをチーム全員が達成するために、学び合う活動を「チーム学習」と位置付け対話的な学びを通して、学力の着実な定着を図る学習を6年間積み重ねる。
- チーム学習では、話し合う内容を焦点化するとともに話し合う方法の定着を図り、主体的に学習に取り組もうとする態度を育成する。
- 単元配列表などのカリキュラム・マネジメントを通して、教科横断的な視点で言語能力・情報活用能力を高めていくようにする。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 板四メソッド(読み解く力を育てる学習過程)を全教職員が理解し、共通認識をもって授業に取り組む。
  - ・「取り出す」「読み取る」「考えをもつ」「練り上げる」「伝える」の学習過程に沿った授業展開を行う。
  - ・各教科の見方や考え方とつなげて「思考のバージョンアップ」を図る。
- 繰り返し学習と補充学習を通して、基礎学力の定着と向上を図る。
  - ・火曜日から金曜日のモジュール等を活用し、国語科と算数科を全校で実施する。
  - ・放課後時間を利用して、補充・発展学習を実施する。
  - ・学校支援地域本部と連携し、漢字検定などの取組を通して学力向上を図る。
- 一人一台端末を活用して、問題解決型・探究型や情報活用型の授業の充実や家庭学習の習慣付けを図る。
- 活用型・探究型の学習を通して、児童の思考力・判断力・表現力の向上を図る。
  - ・全教科・領域を通して、読み解く力などの言語能力と情報活用能力の育成を重点的に行う。
  - ・対話的な学びを重視し、皆が分かる授業・できる授業、楽しい授業を推進する。
  - ・算数少人数指導では習熟度別指導を行い、発展的な内容にも取り組む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
<ul style="list-style-type: none"> <li>○板四メソッドと「教科書を用いて教科書で学ぶ」学習過程を行う。</li> <li>○教師が児童の問いを引き出し、追究したい課題へと変える。</li> <li>○振り返りは児童自らが考えたり発見したりしたことを価値付け、自己の学びの価値を実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対話的な学びを重視し、話し合う内容を焦点化したり、話し合う方法を習得させたりして、学習者全員が本時のめあてを達成するためのチーム学習を推進する。</li> <li>○一人一台端末の活用: ClassroomやJamboardなどで意見等の交流をチーム学習として取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予想される児童の反応を事前に調べそれぞれの考えへの手だてを用意して、個人とチームに意図的な机間指導を行う。</li> <li>○E-S型(Educate-Study型)「教師は子どもの力を引き出す人で、子どもは学びを追究する人」という「令和の学力観」へと意識や授業形態を変えていく。</li> </ul>

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

教員の指導力向上	ICT機器の活用	保護者・地域との連携・協働
<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究主題「主体的に学ぶ児童の育成～読み解く力を高めるチーム学習を通して～」を追究するため、教材研究と授業研究に取り組み、教員の指導力の向上を図る。</li> <li>○自校の学力の状況と課題を把握し、共有した授業改善に日常的に取り組む。</li> <li>○自主研究会を開催し、活用型の授業や問題に類する教材開発と授業力向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クロームブックの学習アプリを活用し、個に応じた学びの展開を行う。</li> <li>○デジタル教科書やICT機器を活用し、意見や考えを伝えることで、より効果的な学びが行われるようにする。</li> <li>○ICT機器を活用した課題の配付、提出、インターネットを使った調べ学習など、学習の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティ・スクールとの連携を生かした教育活動に取り組む。</li> <li>○家庭学習を習慣付け、児童が主体的に自学自習に取り組めるように、家庭との連携を図る。</li> <li>○月1回程度「研究のとびら」を保護者・地域に向けてホームページ上で掲載し、校内研究の取組について周知する。</li> <li>○板橋第五中学校との「心ゆたかな学びのエリア」で小中一貫教育を推進する。</li> </ul>

